

「集団の部」 全国農業協同組合中央会会長賞  
**農事組合法人 SGK組合** (愛媛県西条市)

1. 集団及び経営内容

農事組合法人「SGK組合」は、平成27年7月、西条市西部に位置する周桑農業協同組合（以下「JA周桑」という。）の田野地区の筋違集落の農家25戸39名が構成員となりJAサポート型の集落営農法人として誕生した。

当該法人は、日本一のはだか麦産地を支え、生産拡大を推進する担い手組織として発足し、農業生産は組合員の協業により生産性を向上させ、共同の利益増進を目的としている。

現在は、構成員より通年の利用権設定を行い、作業は統一した規準を定め、作業計画に基づく適期適作業を実施している。

2. 技術上の特色

(1) 湿害対策

はだか麦は、湿害に特に弱い作物であるため、当該地区は、排水性が比較的良好な土壌条件に恵まれているが、作付けに当たっては特に麦作に適したほ場を選定している。さらに、対策としてほぼ全てのほ場に弾丸暗きよと明きよを設置し、ほ場状態に応じてほ場周囲の額縁明きよの設置を行っている。

(2) 土づくり及び肥培管理

前作の水稻の稲わらは全量すき込んでいる。はだか麦は酸性土壌では生育が悪いため、土壌改良材として苦土石灰を140kg/10a施用し、酸度矯正を行っている。肥料は、穂肥が省略できる基肥一発肥料を施用し、生育状況に応じて中間追肥を行っている。前年作の1ほ場ごとの麦の出来や生育状況を記録し、不良ほ場について土壌分析を実施して土壌改良資材や肥料設計を変更したり、JAや関係機関の指導による栽培講習会に積極的に参加することではだか麦の生育に応じた適量施肥に努めている。

(3) 播種

種子は毎年一定量を購入し、次年度の種子用として利用している。複合作業機によるドリル播きで、施肥同時播種により省力化を図っている。条間は20cmで、播種量は8~12kg/10a程度で播種時期に応じて変更し、出芽数の確保に努めている。麦の適正な生育を確保するため、早播きせずに気温と水分状態などが良好な土壌状態になるまで待ち適期播種に努めている。適期播種は安定して高単収に繋がるが、加えて雑草の発生量や株腐病の感染率を低減することができ、結果として安定栽培かつ省力化になっている。

(4) 土入れ・麦踏み

土入れは排水溝の深耕と根際の乾燥防止に重点を置き、概ね3m間隔で設置している。麦踏みは根の浮き上がりと適正な莖数確保、倒伏防止のため実施している。土入れ・麦踏みとも最低2回を目標としているが収量アップのため、天候を見ながら多くのほ場で3~4回は実施している。

(5) 雑草及び病虫害防除

雑草発生状況は1ほ場ごとに草種・発生量を巡回し観察、記録して詳細にデータ化し、草種の種類により夏期湛水による草種の腐熟と非選択性除草剤の散布を組み合わせて次年度栽培に備えている。播種計画においては前年の雑草発生量と、

水稲後作の場合に雑草発生が多くなるため、データを踏まえてほ場選択している。

除草剤の適期散布とともに丁寧な耕起作業により碎土性を上げ除草効果を高めることで確実な除草に努めている。また、麦の生育期には雑草の生育状況に合わせて除草剤を散布し、雑草の発生を最小限に抑えている。低温期での薬剤効果を高めるため除草剤専用展着剤を加用するなど除草効果アップの工夫をしている。

穫前にはほ場を巡回し1~2回のカラスノエンドウ抜き取りにより種子混入の防止に努めている。また、赤かび病については耐雨性に優れる無人ヘリで行い開花期適期散布（JA委託）により、品質向上を図っている。

#### (6) 適期収穫

乾燥・調製は、全量JA周桑のカントリーエレベーター（CE）を利用している。刈取り前には、事前にJA及び関係機関が連携してほ場の立毛調査を実施し、収穫適期を判断するとともに、生育不良、病害、雑草発生ほ場等により品質低下が著しいと予想されるほ場は分けて出荷し、品質向上に努めている。

### 3. 収穫量の向上、品質改善

28年産麦は1月中旬~3月までの生育後半の頻繁な降雨により、根腐れや枯れ熟れが多くのは場で発生した。品種は大粒のマンネンボシで10a当たりの収量は336kg/10aであり、JA周桑28年産平均収量（221kg/10a）、愛媛県平成28年産平均収量（206kg/10a）を上回った（163%）。品質においても、1等比率90.7%であり、愛媛県28年産平均1等比率84.4%を大幅に上回った。

### 4. 労働時間の軽減

10a当たりの所要労働時間は約6.1時間（愛媛県平均10.1時間）であり、土地利用、作業の集積と併せて作業内容により作業人数を増減させ、適期に短時間で作業を完了している。正確な作業を効率的に行うため、区域内4ブロックに分け管理や仕上がりを均一化して生育ムラを低減している。機械は構成員全員の保有機械を活用して有効利用とコスト低減に繋げている。

### 5. 流通の改善、合理化

はだか麦は収穫適期が短いため、適期収穫後、直ちに搬入できるCEを利用している。SGK組合の所属するJA周桑では、平成13年にCEが稼働して米・麦の乾燥・調製を行っており、はだか麦の共同乾燥比率は94%と高く、良質な均一麦生産を行っている。

### 6. 今後の麦作への取組み

栽培課題に対する低コスト機械や大型機の導入により、更なる栽培の向上に繋げる。麦栽培において多収・高品質の新奨励品種「ハルヒメボシ」へ品種転換し、単収・品質の向上を図っていく。

### 7. その他特記事項

当該組合の位置する周桑地域は全国有数のはだか麦産地である。しかし、農家の高齢化等により担い手が減少し、将来的に農地の維持管理が難しくなっていく可能性がある。このような中で「SGK組合」は、地域農業振興に貢献する担い手組織として期待されている。

今後は麦作面積の拡大と合わせて野菜栽培部門を設置し、JA周桑直販所（周ちゃん広場）と連携して複合化による経営拡大・充実を図っていく。また、婦人部の立ち上げを計画しており多くの構成員の労働参加による利益分配とイベント

実施などにより地域活性化に繋げ地域を担う組織として発展させていく。